みず

こんこんと湧き出る清冽で豊富な地下水。熊本県内には、一千カ所以上もの湧水地があります。地下水が豊富な理由としては、阿蘇の降水雨量が全国でもトップクラスであること、阿蘇の大爆発で降り積もった火山灰による土壌の透水性がとても高いこと、地下に巨大な地下水プールがある、などが挙げられます。また、その自然の恵みと同時に加藤家や細川家によって広大な水田や畑が作られたことで、多くの水が浸透したおかげでもあります。さらに、代々の熊本藩主達は水を愛し、県内に多くの御茶屋を設けました。今の私たちはこの自然と先人達の努力によって、水の恩恵を受けているのです。

熊本城と坪井川

加藤清正は熊本城を新しく築城するにあたり、城下町づくりにも着手しました。まずお城の付近で蛇行していた白川をまっすぐに伸ばし、合流していた坪井川をお城の堀として、今の流れにしました。

坪井川は熊本市北部地区を源流とし、立田山からの湧水（八景水谷など）を集めて熊本城を囲むように流れています。そして、船場橋から熊本駅方面に流れていき、白川と並行していましたが、熊本駅から二本木あたりでは、白川とぶつかっていたため、清正はここに石塘を作り二つの川が交合わないようにしました。現在、森都心プラザ裏手にその石塘の跡が残っています。

坪井川はその後、熊本市西区の高橋を通り有明海に注いでいます。江戸時代まではこの高橋周辺が港であり、天草などからの物資がここで平田船（小さな船）に載せかえられ、船場橋や厩橋へ荷揚げされていました。

◆堰とは

水田を作るに当たっては、まず用水路を確保することが大事であり、その用水路に水を引き込むために、川の水をせき止める必要がありました。そのため、川底に石を積み上げ、堰を作ることによって川の水位を上げ、取水口から水を取り込みます。

加藤清正はこの堰づくりに手腕を発揮しました。清正は県内に多くの堰を作りますが、特に渡鹿堰（熊本市中央区）や鵜の瀬堰（甲佐町）など、川に向かって斜めに堰を作るという珍しい作り方を考案しています。

また、堰は、計画的な分流を行ったり、下流側からの海水の逆流を防止（潮止めという）して塩害を防ぐなどの役割も持っています（熊本市南区富合町の呑吐堰や八代市の遙拝堰など）。

◆渡鹿堰と渡鹿用水

加藤清正が慶長年間（1596～1615）に築造したとされる白川水系最大の水利施設です。熊本市中央区大江渡鹿に所在し、白川の水をせき止め、樋門を通して大井手から一の井手、二の井手、三の井手へと分水しています。現在の堰は昭和28年の大水害後に復旧されたものです。熊本市に多くの農業用水を供給し、大きな発展をもたらしてくれました。

【渡鹿堰】
住 所：熊本市中央区渡鹿６丁目

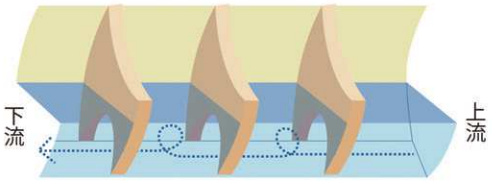
【鼻ぐり井手】
住　所：菊陽町曲手
アクセス：JR 原水駅から車で 11 分

◆馬場楠堰と鼻ぐり井手

菊陽町馬場楠に所在している白川の堰です。ここから取水された水は馬場楠井手として菊陽地域の農業の発展に寄与しました。

その中でも特に「鼻ぐり井手」と呼ばれる所は、加藤清正時代につくられた独創性の高い工法で有名です。

これは井手を複数の壁で仕切り、壁の底部を左右交互に穴を開けることで、底の水の流れを加速させ、阿蘇から流れてくる火山灰土（ヨナ）が底に溜まるのを防ぐために考案されたものです。現在も現役の農業施設として、周辺一帯の農業に貢献しています。



鼻ぐり井手図

【鵜の瀬堰】
住　所：甲佐町豊内
アクセス：甲佐町役場から車で５分

◆鵜の瀬堰

甲佐町に流れる緑川の堰。甲佐は二つの川が流れており毎年のように氾濫を繰り返していました。清正は堤防を作り川を一つにまとめようとしましたが、流れがとても速いため中々上手くいきません。

そんなある夜のこと、清正がこれまで何度も流されてきた堰の上を、鵜が美しく斜めに並んで飛んでいる夢を見ました。これは神のお告げだと思った清正は、鵜が並んだように堰を作らせたところ、うまく川の流れを抑えることができました。そのため鵜の瀬堰と名前をつけたと伝えられています。

現在も、この鵜の瀬堰から分流された大井手川用水路は、甲佐の中心部を通り、町内の農業用水として活躍しています。

～コラム～ 水と農業 通潤橋

九州の中心部に位置する山都町。そのまん中にある矢部地区は矢部八谷と呼ばれるとおり、山々の間に深い谷間を有する地域であった。

その中でも白糸台地と呼ばれる地域は、水を得るために深い谷に降りていく必要があることから、わずかな畑しか耕作できない場所であった。

江戸時代も終わる頃、矢部の惣庄屋であった布田保之助は、この白糸台地に水を通し多くの水田を作る計画を立てた。そこで５ｋｍ以上離れた笹原川から水を引き込もうと考えたが、その間には谷間があり、どうしても水を通す橋を架ける必要があった。そのため、保之助は細川藩の協力をもとに種山石工集団（現八代市）の助けを借りて通水橋の建設を始めた。

通潤橋は長さ75・6ｍ、幅6・3ｍ、高さ20・2ｍの石橋で、橋の上部には3本の石管があり、水を通している。完成時には、橋の中央に白装束を纏った布田保之助が鎮座し、もし橋が壊れたらと石工頭も切腹用の短刀を懐にして臨んだという逸話が残っている。

この橋が出来たおかげで、白糸台地には全長30ｋｍにも及ぶ農業用水が通ることになり、その用水と棚田の景観は国の重要文化的景観に選定されている。

通潤橋は石橋中央からの放水で有名だが、本来は、通水管の掃除のために行っていたもの。現在は観光用として、定期的に放水が行われている。

※詳しくは山都町観光協会へ
（０９６７・７２・３８５５）

【円形分水】
笹原川にある取水口は、白糸台地だけのものではなく、野尻・笹原地区へ送る用水の取水口の役割も果たしていた。このため、両者に送る用水の水量を公平に分けるために、それぞれの水田面積に応じた比率（通潤橋方面へ７割、野尻・笹原へ３割）で仕切られ水が送られている。

【通潤橋】
住 所：山都町下市 184-1

布田保之助

◆江津湖

江津湖は、加藤清正によって作られた湖です。清正は緑川の治水と同時に支流である加勢川の堤防づくりも行いました。その時の堤防を江津塘といいます。これにより、豊富な湧水と河川の流入によって湿地帯であった土地は豊かな米の生産地となり、その外側は湧水が溜まり今の江津湖となりました。

江津湖は長さ2・5ｋｍ、周囲６ｋｍ、水面の面積は約50ヘクタールという広さで、一日の湧水量は40万トンを誇ります。上江津湖と下江津湖にわかれており、上江津湖には国指定の天然記念物であるスイゼンジノリ発生地があり、ホタルなど貴重な動植物６００種類が生息しています。また、動植物園や図書館などもあり、住宅街に囲まれた緑豊かな場所となっています。

上江津湖と下江津湖は整備された遊歩道で繋がっており、朝夕は通勤・通学に急ぐ人、休日には散歩やサイクリングを楽しむ人の姿が見られ、その風景は江津湖が市民の生活に身近なものであることを物語っています。

【水前寺成趣園】
住　所：熊本市中央区水前寺公園 8-1
入園料：大人・高校生以上　400 円
　　子ども（小中学生）200 円

◆水前寺成趣園

熊本市にある熊本藩主のお茶屋跡で、回遊式の大名庭園です。大名庭園は金沢市の兼六園、岡山市の後楽園、水戸市の偕楽園など、他にも数多くありますが、この水前寺成趣園の特長は湧水をそのまま利用しているということです。阿蘇や白川中流域からの地下水が砂を踊らせ湧き、広い池をつくっています。

歴代の熊本藩主は、湧水地を藩主の庭園とすることで、水を公営管理し後世に残そうとしました。水源を名勝地とすることで荒廃を防ぎ、水を愛でる心を民に植え付けたと言えるかも知れません。

水前寺という名前は、初代熊本藩主細川忠利が羅漢寺（大分県）の玄沢和尚を招き、この地に「水前寺」を建立したことに由来します。後に三代藩主細川綱利が回遊庭園として造園し、陶淵明の詩からとって成趣園と名付けました。

【県外大名庭園】

兼六園（写真提供：金沢市）

後楽園（写真提供：おかやま旅ねっと）

偕楽園（写真提供：水戸市）

【白川吉見神社（白川水源）】
住　所：南阿蘇村大字白川

◆白川吉見神社（白川水源）

元禄時代、細川綱利が阿蘇の山狩りの際に参拝し、「当社は余が領地菱田の源神で、恩恵広大である。速やかに社殿を修造せよ。」と郡代に命じたという由緒を持っています。そしてこの周辺は郡代地として管理されることになりました。

また、神社に隣接する白川水源からは、毎分60トン（日量9万トン）の水が湧き出ており、すぐに幅5mほどの川となり、膝までつかるかと思われる流量で勢いよく流れていきます。

不老長寿・諸病退散の御清水として、昔から尊ばれており、環境庁名水百選、熊本名水百選の一つにも数えられています。

このほか、塩井社水源、寺坂水源、湧沢津水源、池の川水源、吉田城御献上汲湯、明神池、竹崎水源など、湧水群が白川水源の近くに数多く存在します。これらは南阿蘇湧水群として総称され、平成の名水百選に選ばれています。この一帯の湧水は阿蘇の中央火口丘群からの伏流水を中心に、南外輪山からの水も入り込んでいることから、豊富な湧出量と良質な水質が特徴です。

◆金峰山湧水群

熊本市の西にそびえる金峰山は、一の岳（一般にここを金峰山と呼ぶ）、二の岳、三の岳、荒尾山、石神山、松尾山と一連の山々が重なっており、金峰山山系と呼ばれています。山襞に形成されたいくつもの渓谷が存在し、水前寺や江津湖などとともに、熊本市を代表する湧水地となっています。

金峰山湧水群は、金峰山系一帯に点在する20箇所（熊本市内の19箇所、玉名市の1箇所）の湧水群を指しています。

その周辺には、九州巡幸をされた明治天皇に水を献上した「天水湖」、熊本藩のお茶屋として造られた「釣耕園」、宮本武蔵が「五輪書」を著した霊巌洞をもつ「雲巌禅寺」、夏目漱石など文人画人が多く訪れた清雅な山水庭園をもつ「成道寺」などがあります。また、希少な動植物が生息し、熊本市中心部からほど近い場所にあることから、休日には多くの市民がハイキングに訪れる憩いの場所でもあります。

【成道寺】
料　金：※入場料：志程度
住　所：熊本市西区花園７丁目2476

◆成道寺

応永33年（1426年）に開かれた臨済宗南禅寺派の寺で、その日が釈迦成道（悟りを開く）の日（12月8日）だったことから、成道寺の名が付いたとされます。後に細川家家老、沢村大学の菩提寺となりました。

モミジ、桜、竹林の木々に囲まれた幽寂な境内に、庭の池に清水が注ぐ音色を聞くことができます。苔むした庭は、多くの文人、画人に愛され、ここを訪れた夏目漱石も

「若葉して手のひらほどの山の寺」

の句を詠んでいます。江戸時代の高僧、豪潮の宝篋印塔や室町後期の五輪塔、徳富蘇峰の詩碑なども建っています。また、紅葉の名所としても知られています。

【お手水】
住　所：熊本市西区花園７丁目（柿原養鱒場内）

◆お手水

成道寺から下へ降りて柿原養鱒場に入り、池の間を奥に進むと、崖を伝い幾条もの清水が流れ落ちています。この清水はお手水と言われ、神武天皇の孫・健磐龍命が火の国巡狩の際、手水としたことに由来しています。加藤清正も熊本城築城の際、たびたび早駆けでやって来ては、のどを潤したと言われていることから、湧水が流れ落ちるそばには加藤清正御巡視の像が建っています。お手水の豊富な湧水は養鱒に利用され、マス料理など食事も楽しめます。

◆三賢堂

住所：熊本市西区島崎５丁目32-27

石神山の湧水を源泉とした、静寂な佇まいの庭園です。「選挙の神様」と評された政治家・安達謙蔵が市民の精神修養の場として建てた三賢堂には、菊池武時、加藤清正、細川重賢の像が鎮座しています。

※堂内見学希望者は熊本市文化振興課（096-328-2039）まで。

◆長命水

住所：熊本市西区島崎４丁目

「肥後國誌」に長命の水と記されている歴史ある湧水です。茶の湯にも重宝された名水で、この水を樽に入れて市街地に売りにいく人もいたと言われています。今も地域の人が清水の湧く石の祠を、美しく維持しています。

◆釣耕園・叢桂園

釣耕園は3代藩主細川綱利が建てた御茶屋跡です。その名は「雲を耕し月を釣る」と詠まれた事に由来しており、池泉を配した庭園が見所です。叢桂園は、藩の医学校「再春館」の創設に尽力した村井家の別荘跡です。閑雅な庭園に釣耕園から引いた清水が曲水を描いています。幕末の思想家で、漢詩人である頼山陽は肥後に来た際、ここの庭の手入れを手伝わされたと書き残しています。

【釣耕園】
住　所：熊本市西区島崎５丁目

【叢桂園】
住　所：熊本市西区島崎５丁目

～コラム～ 沢村大学

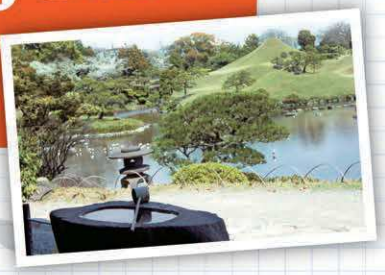
若狭の国（現福井県）に生まれ、同地の城で千石を与えられていたが、その城が断絶し、丹後城主の細川忠興（三斎）の家来となり、小牧・長久手の戦い、文禄の役、関ヶ原の戦いなどで武功をたてた。その後細川家が豊前に移った際は家禄三千石となり、細川家の肥後入国後は家老として五千石を拝領。天草・島原の乱の際は78歳という高齢ながら出陣し家臣を鼓舞したと伝わっている。また槍の名人で、皆朱の槍の使用を徳川家康から唯一許された武士として有名。

宮本武蔵が五輪書を書いた霊巌洞の壁には、沢村大学の逆修*が刻まれている。

※逆修とは
生前に、自分の死後の冥福のために仏事をすること

御茶屋めぐり 殿様気分を満喫

① Start 水前寺成趣園



熊本を代表する大名庭園。園内にある古今伝授の間では、お茶とお菓子が味わえ、日本伝統のおもてなしの文化を体感できます。
詳しくは、第2章水（P.49）へ

data
熊本市中央区水前寺公園8番1号
TEL 096-383-0074
営 8:30～17:00（11月～2月）
7:30～18:00（3月～10月）
料 高校生以上400円 小・中学生200円

車で 30分

② 御馬下の角小屋（みまげかどごや）

参勤交代で豊前街道を通る大名たちの休息所として利用されていた庄屋宅で、西郷隆盛も立ち寄ったといわれています。藩主の休憩所に使われた御成の間、次の間などの座敷部分と店舗、茶の間などの商家部分の二つの機能を併せ持つ珍しいつくり。

data
熊本市北区四方寄町1274
TEL 096-245-2963
料 高校生以上200円、小・中学生100円
営 9:30～16:30 P 駐車場 有り
休 月曜（祝日の場合は翌日）、
12月29日～1月3日

車で 40分

③ さくら湯

藩主の休泊所として使われた「御茶屋」から歴史が始まる温泉。初代熊本藩主・細川忠利公はこのお湯をいたく気に入ったそうです。またおふろ嫌いとされていた宮本武蔵も入ったという謂われが残っています。

車で 15分

④ 平山温泉（加藤清正湯治）

山鹿温泉からさらに北西へいくと、加藤清正が湯治に訪れ、汗疹（あせも）を治したという逸話が残る平山温泉があります。ここのお湯は弱アルカリ性の硫黄泉で、ぬるっとした肌さわりが特徴です。

data
山鹿市平山 5346-1
（平山温泉観光協会）
TEL 0968-44-0522

車で 15分

⑤ 岳間茶（たけまちゃ）

殿様が気に入ったのは温泉だけではありません。ここ岳間のお茶も大層気に入り、熊本藩の御前茶として献上されていたそうです。山鹿市鹿北町にある道の駅小栗郷では、岳間のお茶を購入できます。

data
道の駅鹿北小栗郷
山鹿市鹿北町岩野4186-130
TEL 0968-32-4111

車で 30分

⑥ Goal 南関御茶屋

参勤交代では、肥後国内の最後の休息地「御茶屋」であった場所。平成15年に国の史跡に指定されました。現在もお茶とお菓子がいただける、旅の最後にはぴったりの場所。

data
玉名郡南関町関町 MAP
TEL 0968-53-0859
料 高校生以上200円
小・中学生100円
営 駐車場有り
P 9:30～16:30
休 毎週火曜日
（祝祭日は水曜日）

コースチャート 御茶屋めぐり編

スタート
1. 水前寺成趣園
↓ 車30分
2. 御馬下の角小屋
↓ 車40分
3. さくら湯
↓ 車15分
4. 平山温泉（加藤清正湯治）
↓ 車15分
5. 岳間茶
↓ 車30分
ゴール
6. 南関御茶屋